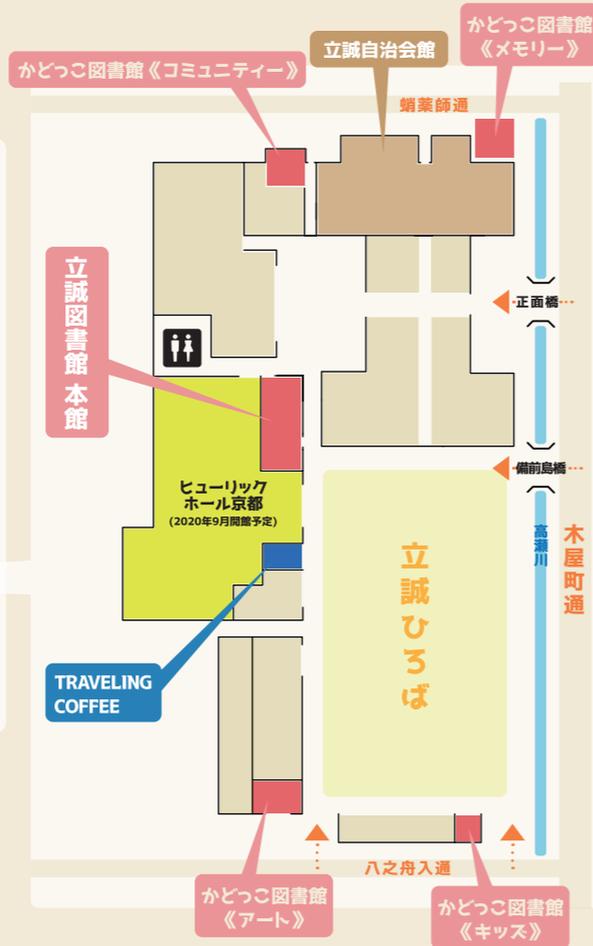


立誠図書館とは

立誠図書館は明治2年に下京第六番組小学校として開校、平成5年に124年の歴史と共に閉校した京都市立立誠小学校の跡地に開業した「立誠ガーデン ヒューリック京都」に一般社団法人文まちが設置する図書館です。ブックディレクター”BACH”の幅允孝氏が選書を監修した5つのカテゴリーの書籍、約3000冊を所蔵しています。

立誠図書館は「地域のまなびや」であり“もっと、つながる”をビジョンに人と本、人と人をつなぐ図書館運営を目指しています。

アクセス



阪急電車「京都河原町駅」1番出口より徒歩3分
京阪電車「祇園四条駅」4番出口より徒歩5分

ご利用の案内

【開館時間】11:00~17:00(*複写サービスは16:00まで)

【休館日】毎週月曜日、年末年始

【お問い合わせ】TEL:075-585-5561 FAX:075-585-5562 MAIL:info@bunmachi.org

【公式サイト】<https://www.bunmachi.org>

【所在地】京都市中京区蛸薬師通河原町東入備前島町310-2



立誠図書館

検索



ヒューリック株式会社

*「Page.3」では広告を募集中です。お気軽にお問い合わせください。



一人・本・地域をつなぐ

Page. 3

発行日:2020年6月22日
発行:一般社団法人文まち 立誠図書館/企画・編集:栗山万葉
編集:石橋美樹・田原恵美子/デザイン:脇田友

2020.07.21

「もっと、つながる」

立誠図書館ついに開館!

開館特別インタビュー vol.1

「未来につながる図書館を目指して」
立誠図書館 × ヒューリック株式会社



開館特別インタビュー vol.2

「本を通してお客様の思い出に携わる仕掛け」
立誠図書館 × ザ・ゲートホテル京都高瀬川
by HULIC

「もっと、つながる」図書館とは



蔵書紹介

よむ ます
YOMU-DOSU?



2016年から始動した元立誠小学校跡地計画から4年、ついに複合施設「立誠ガーデン ヒューリック京都」が2020年7月21日に開業します。立誠図書館をはじめ文化事業を担当する一般社団法人まちと、跡地活用の公募型プロポーザルにて選ばれたヒューリック株式会社のスタッフでこの4年間を振り返り、そして開業後について対談しました。



「立誠ガーデン ヒューリック京都」完成イメージ

元立誠小学校との出会い

* 【お話を伺ったヒューリック(株)の皆さん】(大)大久保さん (宮)宮脇さん (寺)寺嶋さん
【まち】(菅)菅照 (石)石橋 (栗)栗山

栗：皆さんの立誠の印象や思い出を教えてください。

菅：私は2011年に地元主催の「まなびや」というイベントに、縁がありデザイン担当で関わった事が最初です。閉校した校舎を活用し地元行事や、文化・芸術の発信事業をしましたが耐震問題による使用の停止。そして跡地活用プロジェクトと関わってきました。

石：私は前職がアパレルで全然違う職種から約2年前にご縁があり転職してきました。京都に生まれながら地域の方と深く関わったということもなく、常に試行錯誤ですが図書館共々盛り上げていきたいです。

栗：私は大学進学で京都に来まして、演劇の魅力にハマり舞台美術をやっていたので初めて立誠に来た時は上演のためでした。その後ご縁があり2014年から文まちに入り今に至ります。やはり京都はまちの方々が文化・芸術を守ってきた歴史がありますし、自分たちの価値観や作りたいものを大事にして製作ができる場所だと思っています。新しく複合施設になることになりとてもワクワクしています。

宮：私は跡地をザ・ゲートホテルとして運営することが決まってから初めて立誠を訪れました。ひと目で「絶対にかっこいいホテルになる」と思ったことを覚えています。地元の皆さんとお話させていただいて、大事に守って来た皆さんの想いが息付いているから良いものが残っている事に気が付きました。この数

年間、立誠学区のお祭りや高瀬川の清掃、三者協議会などで関わらせていただいて地域の方々がこの建物に対してどういう思い入れを持っているのかと言う事を少しでも知ることが出来たと思うのでしっかり引き継ぐことが課題だと思っています。

大：私が最初に行ったのは4年前の秋頃だと思います。関西出身なのである程度周辺の雰囲気や木屋町通の夜は若者で溢れていると言う事は知っていましたが、その場所に歴史を感じられる立誠小学校の存在を知って本当に驚きました。その場を活用して新しく生まれ変わる事にとっても可能性を感じて取り組み始めましたが、当時は社会人1年目だったので何をしたいのかわからない状態でした。そこでまずは地元の方々と沢山コミュニケーションを図り、地域の皆さんの人情深さに触れました。入社時から全力で進めてきましたので、本プロジェクトは自分の子どものように感じています。文化事業は地域の皆さんが主体となって尽力された功績がありますので、その文化の匂いを消さないように活用していきたいと思いましたね。

寺：私が京都の大学に入学したのが2011年で、3人の中では1番京都歴が長いですね。当時は、立誠でお祭りをやっているのは見た事があったのですが、限られた人しか入れへん場所だと思っていました。その後、就職で東京へ行きましたが、まさか自分が担当するとは！私も1年目で苦戦しましたが、最初に「お前が寺嶋か」と認識されたのは工事の前段階とし

て夏に実施した地域の物品片付けだったと思います。

栗：すごい量を片付けましたね。

寺：「どんだけ物溜めてんねん」と思いましたよね。

栗：すいません！（笑）。

寺：（笑）。あの時に、地元の皆さんとコミュニケーション

する機会は今しかないと思ったので、頑張って片付けていると、色々な方から声をかけて頂きました。関西弁で「あ、こっち出身なん？」となり、徐々に皆さんとも喋れるようになったと思います。

文化的拠点を柱に、にぎわいとコミュニティの再生を目指す

栗：元立誠小学校跡地活用は「文化的拠点を柱に、にぎわいとコミュニティの再生」と言うコンセプトがありました。みなさんの役割の中でそれをどのように捉え工夫されて来られましたか？

菅：跡地活用について立誠自治連合会から出された要望書の内容はハードルが高かったと思いますが、プランの提案も大変でしたよね？

大：当社は官民連携事業の実績が豊富ですが、そのノウハウを持ってしても提案が難しい案件でした。まずは要望書の真意を探るために実際に地域を歩き、お話をし、ハード・ソフトそれぞれ出来ることを模索しました。少しでも地元の皆さんのご意見をなんとか形にしたいという想いで進めた記憶があります。

栗：ハード・ソフトのポイントはなんでしょうか？

大：応募の条件であった地域の歴史・文化を継承・発信するための図書館と避難所機能としての多目的スペー

スがポイントです。これまでの文化事業の継続も目的としたヒューリックホール京都として整備しました。

宮：ホテルとしては、ザ・ゲートホテルはライフスタイル型ホテルと言われる、寝泊りするだけではなく旅を通した経験を重視しているホテルなので、それが今回のコンセプトと相性が良いように感じました。例えば地域のお祭りはローカルに踏み込んだ宿泊体験になります。また、文化や芸術へ関心が高いお客様も多く、知的な魅力のある大人のホテルでありたいと言うものもあります。その点、図書館やホールが併設されている事はホテルの特色として面白いものになると思っています。

寺：私は役割上ハード面の管轄なのでソフトで寄与は出来ませんが、完成後にホテルのスタッフを含め、コミュニケーションを取りやすいような礎作りを意識していました。

「もっと、つながる」図書館を目指して

栗：これからは「もっと、つながる」と言うビジョンに掲げて運営していきますが、仮設図書館はいかがでしたか？

宮：私は置いてある本が本当に楽しくて。大人になってからは図書館から足が遠のいていましたが、「こんな本はどうですか？」と提案される面白さを改めて見つけたなと思っています。その体験をぜひホテルのお客様にもしていただきたいという気持ちが強くなり、ホテルのゲストのラウンジにも立誠図書館のライブラリーコーナーを作るご相談をさせていただきました。最近ではホテルにライブラリーがあることも多いのですが、読みごたえのある本が少なかったりラインナップがなかなかアップデートされないと言うことが多いです。その点今回は選書にこだわったり季節やお客様のフィードバックを元に入れ替えを準備しておりますので、生きた図書館として楽しんでいただけるようになるのではないのでしょうか。また、イベントとか講演会だとかワークショップなど一緒にアクティブに歩めたらいいなと思います。

寺：私もよく出張で京都にいる時によく図書館を利用していましたが、高瀬川沿いという空間がまず希少でした。新しい建物では中心に位置しており、本館も4つのかどっこ図書館もそれぞれがアイキャッチになる面白い作りです。例えば新しい建物の中では人工芝の立誠ひろばもあるので本を持ち出して読むなどの楽しみが生まれますよね。あとは、手作り感満載な図書館がこの地域の雰囲気にあっているなと思いました。柔らかい図書館というか。その手作り感はそのまま続けていって欲しいなと思います。

栗：そのように感じていただけて嬉しいです。地域の方ですとか、色々な方がとりあえず入りやすい、「入っていいんだな」と思っていたら嬉しかったですよね。

石：図書館と聞くと静かに読書、勉強というイメージで少し身構えますよね。立誠図書館はもっとハードルを低くして、入りやすさを意識していました。

栗：その時に並んでいる1冊に興味湧いたりして、新しい情報につながっていただければ嬉しいです。

大：私も、非常にアットホームな図書館だと思っていました。

計画段階では図書館の設置者である文まち様とどのような企画にするか苦戦した覚えがあります。選書の監修をしていただいているBACH様が地域の方々のご意見を吸収して上手くアウトプットして下さった事を皮切りに文まちさんが発展させ、企画等を展開しながら唯一無二の図書館になったと思います。

普：不安もありましたが図書館を初めて運営する文まちが1から作ってみるとい状況が、逆にのびのびと進められた理由かもしれません。それは支えてくださった皆さんのあたたかい目のおかげでもあります。

大：それぞれが上手く噛み合って、奇跡だと思っています(笑)。

普：読みがたりの絵本ライブも初めはご縁があって始めましたが、面白いですね。皆さんはどうでしたか？

寺：めちゃくちゃ面白かったです。

大：感動しました。子どもよりもはしゃいでいたかもしれせん。

宮：大人になってからも絵本が楽しいと思えるのだなと知りました。

普：読むのではなく、読んでもらって楽しいと言うのが新鮮ですね。

栗：最近はお子さんではなく、大人の方がターゲットと言う絵本もありますので、今後は大人向けの絵本

ライブも開催したいと思っています。

普：ホテルのリトリートルーム(旧：自彊室^{じきょうしつ})で英語の読みがたりもしたいなと考えています。外国の方にも楽しんでいただきたいですね。

宮：自彊室はやはり保存して良かったですね。

栗：立誠の歴史の部分を目に見える形でたくさん残していただいているので、歴史を継承しながら続けていくための材料がたくさんあるように感じました。

寺：完成して終わりではなく、開業後の活用の可能性があります。

普：「元々小学校だったんだよ」という事が外観や自彊室のおかげでとても説明しやすいと思います。びっくりしたのが外壁にあるレリーフ。前はボロボロで原型がわからへん状態でしたが、あれよう再現できましたよね！

寺：これを言い出すと2時間くらいかかるんですけども(笑)。欠けている部分を補修する時に、前の形を想像して模造で作ると言う方法があります。ですが今回は保存という観点で考えると、欠けているところはあえて欠けたまま補修する事にしました。建物を見る時は意匠の保存等に注目すると面白いと思いますよ。

元立誠小学校の歴史のバトンをつないでいく

栗：立誠ガーデン ヒューリック京都の完成後にどのような未来を託しますか？

大：文化・歴史の継承という意味ではやはり立誠図書館が核となっていると思うので、是非地域への賑わいの創出等に貢献していただきたいと思っています。そういう姿を願っています。

宮：ホテルの企画を進めた時に、お客様と地元の方とホテルのスタッフなど色々な人がいて、そんな皆さんに愛されるホテルになって欲しいと思っていました。「つながる」と言う面で図書館とホテルのコンセプトは通ずるものがありますし、手を取り合っ一緒に歩いていきたいですね。他にもテナントさんも入られるので、テナントさんとのコラボレーション等、材料がたくさんある場所だと思っていますので、これからどのように協力して盛り上げていくかが私自身の楽しみです。

寺：よく弊社の建物として100年もつ機能性とデザインと言うテーマがあるのですが、今回は元々あった100年以上の歴史を次につなげていけるような建物になって欲しいと思います。校舎を保存した

旧館が評価を受ける事は嬉しいですが、ゆくゆくは新館など建物全体が評価される事を期待しています。

普：前までは図書館しかなかったのですが、仮設図書館に併設していた TRAVELING COFFEE はもちろん、複合施設になり文まちはヒューリックホール京都、立誠ひろばの運営管理も行います。それらコンテンツ全部を使いながら本を楽しんでいただけるようステップアップを目指したいですね。

石：やはり今まで受け継がれてきたものを続けていける施設になってくれれば良いなと思います。それは国内の方に限らず、海外の方も含めて京都の立誠という土地から何か色々なものが発信できるような場所になればありがたいと思います。

栗：立誠ガーデン ヒューリック京都や立誠図書館に訪れた方々が「色々な本や人に出会えたね」「また行きたい」と感じていただいて皆さんの人生の通過ポイントになるような色々な仕掛けができるようになります。ご期待に添えるように頑張っています！



「高瀬川夏まつり」で飲み物を販売したり各セクションからひっぱりだこだった3人。

【今回お話を伺ったヒューリック株式会社の皆さん】

宮脇優 Miyawaki Yu (写真左)

愛知県名古屋市出身。観光ビジネス開発部所属。2014年ヒューリック株式会社入社。業績管理業務を経て2017年より THE GATE HOTEL 開発業務を担当。趣味はホテル巡り、ヨガ。
好きな本：内田繁『INTIMATE HOTEL』、ダン・ブラウン『ダ・ヴィンチ・コード』
池田理代子『ヘルサイユのぼら』

大久保立樹 Okubo Ritsuki (写真中央)

兵庫県神戸市出身。開発事業第二部所属。大学から上京し、2016年にヒューリック株式会社入社。当案件の事業者選定時から事業全体の企画・開発・テナント誘致を担当。趣味はゴルフとドライブ。
好きな本：マイク・セイラー『ぼちぼちいこか』、水野敬也『夢をかなえるゾウ』
池井戸潤『空飛ぶタイヤ』

寺嶋峻正 Terashima Takamasa (写真右)

大阪府池田市出身。不動産統括部 開発推進グループ所属。学生時代を京都で過ごし、2017年ヒューリック(株)に入社。入社以来、立誠ガーデンヒューリック京都の開発を担当。趣味はサウナ巡り、居酒屋開拓。
好きな本：湯本香樹実『夏の庭』、椎名誠『岳物語』、アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』

はみ出し コラム

第6回

クレオパトラも 香りに癒されや？

世界中で新型コロナウイルスの感染が蔓延しており、読者のみなさんも自粛生活のため自宅で過ごす時間が多くなっているかと思います。1日でも早く収束してくれる事を願うばかりですね。

世界三大美女のひとり、クレオパトラ。彼女はバラをこよなく愛していました。クレオパトラはバラの香油をお風呂に垂らし入浴していたそうです。彼女は自分自身が癒されたのはもちろん、その香りをまとう事で多くの男性を魅了したと言われています。

天然香料や精油にオイルを混ぜて作られる香油は日本ではアロマオイルとして親しまれています。その効果はストレス緩和・不眠改善・不安を和らげるなど、たくさんの効果が期待できます。ぜひ、アロマオイルの香りに癒されながらゆっくり本を読んでみてはいかがでしょうか？(石橋)

【参考文献】

和田文緒『アロマセラピーの教科書ー いちばん詳しくて、わかりやすい！』
新星出版社 2008
【引用】P9,1-P9,5



カルロ・マラッタ『クレオパトラ』(1695)

本を通してお客様の思い出に携わる仕掛け

宿泊者様専用ラウンジ&パティオへの立誠図書館ライブラリーコーナーの設置、滞在中のフロントと連携した本の貸出、連携イベントの開催等、図書館とホテルの新しい関係に挑戦します！



地域とのつながりを活かしたライフスタイル型ホテルの魅力

* お話を伺った方(福) 福田さん / 聞き手(立) 立誠図書館 栗山

立: ザ・ゲートホテル京都高瀬川 by HULIC の魅力を教えてください。

福: ザ・ゲートホテルグループとしては3店舗目、関西エリアには初めて進出するライフスタイル型のホテルです。これまでの2店舗では地域の魅力を発信していくために、地元の商店とのコラボレーション、地域行事に参加をするなど地域の皆様とのつながりを大切にしてきました。今回も地域の皆様に長く愛されてきた場所を引き継いでホテルを設けますのでこれまでの経験を発揮出来るのではないかと考えております。建物は新築棟に加えて立誠小学校の校舎を保存・再生した Schoolhouse 棟があります。新築棟は地上8階建てで最上階にフロント・ロビー、レストランがございます。80メートルの全面ガラス張りの開放的なフロアになっていて、レストランはご宿泊のお客様以外もご利用いただけます。Schoolhouse 棟は客室のほか道徳や礼儀作法の授業で使用されていた60畳の自彊室をリノベーションした Retreat Room もご用意しております。立誠小学校という場所の魅力を「立誠ガーデン ヒューリック京都」が一体となって盛り上げていこうとしていることが1番の魅力だと思っております。この場所では出来ないような体験をお客様に存分にお伝えしていきたいです。

立: Retreat Room について伺います。立誠図書館のイベントなども開催させていただき予定ですが、

どのような場なのでしょうか？

福: ザ・ゲートホテルではホテルという日常から少し離れた場所で改めてご心身と向き合ってリトリートしていただく、新しい自分を発見するという意味を含め、当時の状態を生かすために、自彊室全体を重機で持ち上げて土台を上げて修復し、建具として使用されている木材は全て風合いを残すために水洗いだけしました。**立:** 誰かが柱に何かをかけるために打ったと思われる釘なんかも残っているんですね。ある意味あの場所を使ってきた人の歴史が残っていると言うか。

福: ですよ。立誠小学校の「立誠」という言葉は人に対して親切にして欺かないという精神を長く育んできた場所だと伺っていますので、今後も新しい価値を発信していける場にしたいと思っています。活用方法として、朝にお香の香りに包まれてゆっくり瞑想や朝ヨガ、図書館さんや地域の皆さんともコラボレーションを展開する予定です。

立: 打ち合わせの際に、英語の読みがたりの話も出ましたよね。海外の方にも楽しんでいただけるイベントも展開できたら良いなと思っています。次にラウンジ&パティオについて伺います。ここには立誠図書館のライブラリーコーナーも設置される予定です。この件をご提案いただき大変光栄でしたが、設置の経緯や想いを教えてください。

福: ここはご宿泊して頂いたからこそ味わっていただける地域の魅力を感じていただく場にもなっています。

新築棟3階と Schoolhouse 棟の接合部に設けており、立誠小学校という地域の皆様にとって大切な場所をご宿泊の皆様にも知っていただきたいという想いがあります。そして、本は絶対的な魅力のひとつだと思っています。今は電子書籍が普及しているじゃないですか。

立: そうですね。

福: 逆に本を手にとってページを読み進めることは、忙しい現代社会を生きる人々にとって贅沢な時間の使い方かと思います。宿泊するからこそ時間的にも

気持ち的にも余裕が生まれます。そこに本を読むという行為が加わることで、より豊かな時間が生まれると思うんですね。私も本が好きで休日に本屋さんに行って1日そこで過ごすことは、贅沢な時間の使い方だと思っているんですよ。

立: 電子書籍もそうですし、動画配信サービスを観るという事も多い中で、文字・活字文化を実際に体験して頂きたいという想いが図書館としてありますので、そこを大切にさせていただけることは嬉しいです。

ご宿泊中に立誠図書館で本を借りて情報収集！

立: 今回特に特別な挑戦となるのがご宿泊者様への滞在中の図書貸し出しサービスです。フロントで24時間返却対応頂けることになりました。この魅力はなんでしょうか？

福: 図書の貸出サービスが出来るということは、画期的だと思いました。図書館とホテルが連携することで手続きがシームレスになってご宿泊者様にとって気軽に本を借りられます。私も旅行する時に移動中やホテルなどで読もうと本を持つのですが、「これを読み切っちゃったら次どうしよう」と不安になることもあります(笑)。

立: そうですか!?(笑)。

福: 旅先で買ったり、何冊か持って行くと荷物になりますよね。ですが、あらかじめホテルで本が借りられると知っていれば、とりあえず1冊で大丈夫。個人

的にも嬉しいサービスですし、自分では買わないような本や、普段は読まないような本と、出会うことも出来ると思います。そこが魅力的だと思っています。

立: 立誠という場所ならではの魅力的な5つのカテゴリーの本を用意していますので、本を通して立誠周辺や京都の魅力に出会っていただけたらと思います。

福: 京都について書かれた本を京都で読むことは特別な体験かと思います。素敵ですよ。

立: そうですよ。その上、京都各所へアクセスしやすい立地ですので本を読んで気になった場所へ行きやすいと思います。

福: すごく、良いですよ。

立: 本ならではのコアな情報を通じて京都が初めてではない方でも、新しい魅力にも出会っていただけるかもしれません。

図書館とホテルが提供する特別な思い出とは？

立: 立誠図書館とコラボレーションすることでどのような事が期待できると思われますか？

福: ある本をこういうシチュエーションで読んだとか、その時はこんな想いだっとなというように本と人の心理って関わっていると思うんですね。

立: ありますね! 思い出がリンクしますよね。

福: 本ごとの思い出があるじゃないですか。そしてその本を読み返すと、また違う想いも生まれたり。例えば滞在中に読んだ本を、5年後にもう1回「あの時、京都のザ・ゲートホテルで読んだ時にこんな事を思ったな」と言うように思い返したり、「あの時と今はちょっと違う人生になったな」とか。そういう風にお客様の思い出だったり人生のひとつに本を通じて一緒に携わることが出来たらとても素敵だと思っています。これまでにない、新しい時間の過ごし方の価値を発信していけると思っています。

また、読書は自分と向き合う時間にもなるのでホテルとリンクさせるというのはすごく素敵だなと思うんですよ。日常じゃない自分になって過ごす時間だと思っています。

立: そうですね、本を読んで実は自分と向き合うという点は、私もそう思います。そういう点が実はホテルの特性と似ているということが今回お聞き出来て面白かったです。



【今回お話を伺った方】

福田 祐紀 Fukuda Yuki

宮城県仙台市出身。外資系ホテルを経て、2012年ヒューリックホテルマネジメント(株)に入社。ザ・ゲートホテル雷門 by HULIC の開業から携わる。好きな本: 村上春樹『スプートニクの恋人』、戸部良一、寺本義也など『失敗の本質 - 日本軍の組織論的研究』



2018年4月に仮設で開館し、ついに2020年7月21日に開館する立誠図書館の全てをお教えします！

立誠図書館のビジョン「もっと、つながる」

1 地域のみなとつながる

立誠図書館はどなたでも気軽にお越しいただける「地域のまなびや」です。特に次世代を担う子どもが読書の楽しみに触れられるよう、選書や読みがたりイベント等の開催を通じて子どもの読書活動推進に取り組みます。

2 文化・芸術とつながる

文字・活字文化を中心に多様な文化・芸術に関連する図書の選書、イベント等の開催を通じてその魅力や意味を発信し、現在の世界を見つめる多様なまなざしの入り口となります。

3 地域の歴史とつながる

角倉了以が開削し、森鴎外が『高瀬舟』に描いた高瀬川のほとりに建てられた元立誠小学校周辺は江戸時代には土佐藩邸、明治時代には最初の映画とされる「シネマトグラフ」が日本で初めて投影された地です。歴史的資産を多く残す地域の歴史・文化を伝えていきます。

4 世界中とつながる

京都観光の情報収集にぴったりの本を用意し、世界中からお越しくださるみなさんをお迎えます。また、京都で働くスタッフだからこそそのオススメ情報は直接お尋ねください。

サポーターと会員サービスのご案内

立誠図書館の活動にご賛同いただき、図書と施設を大切に利用して頂ける小学生以上の方はどなたでもご加入いただけます。本館カウンターにてお申し込みください。

	個人サポーター	企業サポーター	読書会員	かどっこ《アート》会員
会費(税込)	3,000円(年会費)	50,000円(年会費)	1,000円(年会費)	3,000円(1日利用につき)
図書貸出	2週間/3冊まで	2週間/10冊まで	2週間/3冊まで	2週間/3冊まで
会員特典	グッズ1つ+コーヒーチケット1枚	グッズ3つ+コーヒーチケット3枚	コーヒーチケット1枚	×
その他	機関誌・メルマガ送付 HPへのお名前掲載	かどっこ《アート》ミニギャラリー 利用料優待 機関誌・メルマガ送付 HPへのお名前掲載	立誠ひろば読書セット (レジャーシート等)貸出 メルマガ送付	かどっこ《アート》ミニギャラリー利用 機関誌・メルマガ送付

*サポーター・会員以外の方でも館内での本の閲覧、イベントへご参加(一部有料イベントあり)していただけます。

4つの立誠図書館の蔵書 *各図書館の場所はp11

立誠図書館は本館と「立誠ガーデン ヒューリック京都」内、東西南北にある4つの「かどっこ図書館」からなります。「かどっこ」とは京都弁で「角」を現す言葉で、それぞれ1つのカテゴリーに特化した図書館です。選書はブックディレクター”BACH”の幅允孝氏が監修した5つのカテゴリーの書籍、約3000冊を所蔵しています。

本館の蔵書

食べるの本棚



どんな年齢層でも興味を持つ汎用性があり、ネット時代において唯一無二のアナログコンテンツである「食」に関する本は強い引力を発揮します。カフェという場所で、珈琲本やたべもの絵本など、あらゆる「食べる」があります。

京都歩きの本棚



内側から、外側から、あらゆる視点から眺めた京都に関する本を所蔵しており、観光で訪れた方にとっては京都ガイドにもなるはずで。

立誠小学校DNAの本棚



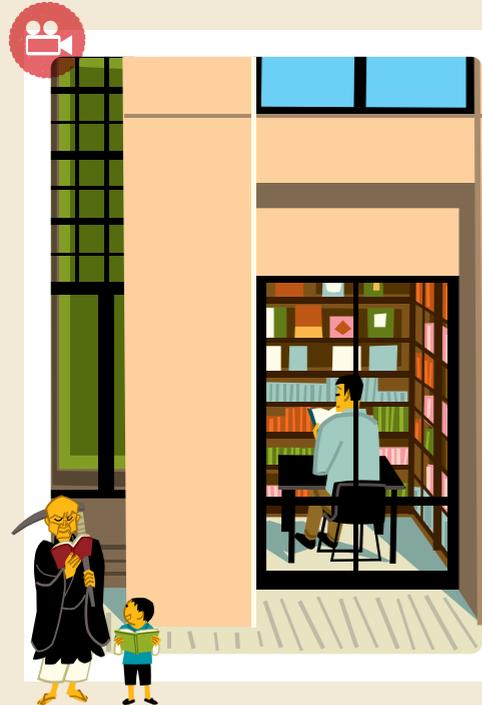
日本映画原点の地として、また角倉了以によって開削した高瀬川の風景など、この里の磁場を表している本があります。

世界の入口となる本棚



子どもから大人まで楽しめる絵本、おはなしの本、図鑑・事典など、新しい世界への扉を開くきっかけとなるような本を幅広く置いています。

かどっこ図書館の蔵書



◀かどっこ図書館《コミュニティ》

〈立誠小学校DNAの本棚〉の図書を所蔵し、「地域の書齋」として地域の歴史を見通すことができる図書館です。

かどっこ図書館《キッズ》▶

〈世界の入口となる本棚〉の図書を所蔵する、お子さんと保護者の皆さんが気軽に図書を楽しむ図書館です。京都市西京区「えほん館」花田睦子氏も選書に参加しています。



◀かどっこ図書館《アート》

〈アートの本棚〉の図書を所蔵し、展示用ルーバー、プロジェクター、ライティング設備を備えミニギャラリー機能も合わせ持ちます。「かどっこアート会員」(P.8)に加入していただくとご使用いただけます。

アートの本棚

様々な芸術が発展してきた京都を背景とするアーティストの本を中心に、絵画、工芸、写真、建築、現代アート、ファッションなどの本があります。

かどっこ図書館《メモリー》▶

電子サイネージと本の展示台を備え、「読書の入り口」となる展示をする図書館です。高瀬川の沿革、高瀬舟の模型、淡い緑色の花が珍しい御衣黄桜、地域のお知らせ掲示板もあります。

ザ・ゲートホテル京都高瀬川 by HULIC ラウンジ&パティオ「ライブラリーコーナー」

ザ・ゲートホテル京都高瀬川 by HULICにご宿泊のお客様専用ラウンジ&パティオに立誠図書館のライブラリーコーナーが設置されています。京都での宿泊時間をより豊かにする、ご宿泊者様だけが特別にご利用いただけるライブラリーです。また、ご宿泊期間中は読者会員に加入することなく本を借りる事ができ、フロントで24時間返却していただけます。

よむどす？
YOMU-DOSU?

蔵書よりホームページで毎週月曜日に図書を紹介する企画「YOMU-DOSU?」。新しい図書館を準備中の今号では番外編としてスタッフ自身の本棚よりおすすめの本を紹介いたします。「YOMU-DOSU?」公式サイト：<http://www.bunmachi.org/recommend>



『ブラムスはお好き』

著:サガン
訳:朝吹登水子
新潮文庫

「サガン」の名前を聞いた事がある人は多いのではないのでしょうか。「サガン」と聞いて思い出される他の書籍に『悲しみよこんにちは』はあまりにも有名です。が、今回は本書をご紹介したいと思います。本書は男女間の恋愛をテーマに、それぞれの揺れ動く心の葛藤や、それと共に街の景色などが実にうまく書かれています。読み進めていくうちにどんどん物語に没頭しその内容は実にジェットコースターに乗っているようにさえ感じるようでした。出逢いと別れのこの季節、恋愛のドキドキ感を本から味わってみても面白いのではないのでしょうか？



石橋 美樹
好きなこと
海外旅行/映画鑑賞/
音楽鑑賞/いい香り

ズバリ!料理!!晩ごはん作りはストレス発散になっています!



『サザビーズ』

『豊かさ』を「幸せ」に変えるアートな仕事術』

著:石坂泰章
講談社

本書は美術品オークション会社サザビーズジャパンの社長石澤氏が美術の楽しさ、豊かな仕事様様を伝えます。従来アパレル展開をしなかったアンディ・ウォーホル財団とユニクロのコラボを実現させた美術への熱意と商才を兼ね備えた人物です。美術は作品を買うだけではなくライフスタイルに合わせて楽しめますし、普通の会社勤めの人でも買える作品もあります。私も「この絵が家にあれば気持ちが豊かになる」と思い切った結果、幸せです。一方海外での目玉のオークションのルポ部分は高額入札が飛び交う臨場感が美術の華やかな部分を伝えワクワクします。



栗山 万葉
好きなこと
アート/音楽/食べる
こと/好きなものを正
直に愛すること

外国の料理を作って、食卓だけでも旅気分を味わっています。



『空飛ぶ馬』

著:北村薫
創元推理文庫

国文科の大学生「私」と落語家・円紫師匠が様々な謎にのぞむ『円紫さんと私シリーズ』の第1作であり北村薫氏のデビュー作。いわゆる「日常の謎」ミステリーの先駆けです。物語に出てくる文学や芸術の知識がとても豊富で、すべて理解することは到底できないけれど、それはひとまずおいといて。謎解きを通して、その背後にある人の心に触れて成長していく「私」の様子が深い洞察力と愛情で描かれていて、もう読むたびに胸がいっぱいになってしまいます。表紙絵は続編もすべて高野文子さん。こちらも素敵です。



田原恵美子
好きなこと
演劇・ドラマ・映画/お酒
にコーヒー/本を読んだり、
声に出したり/犬

多肉植物を育てはじめました。手入れが簡単と言われることもあるけれど、結構むずかしい。ハマると大変な予感しかありません。